

農業の生産基盤をめぐる情勢と課題

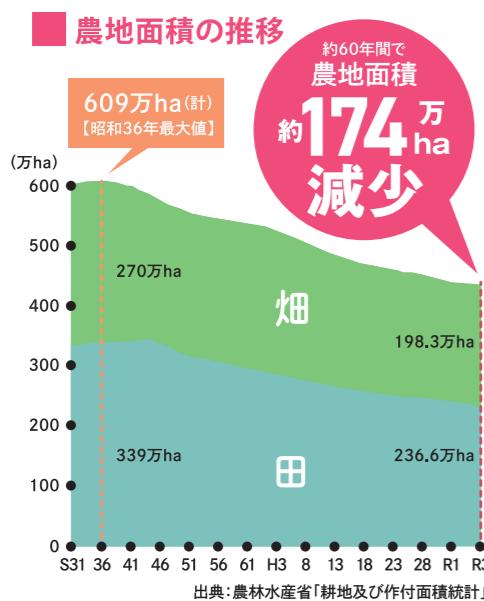
(注)このパンフレットでは、田畠へ施用する家畜の排せつ物に由来するものを「畜産たい肥」と総称しています。

「3-R」が果たす役割

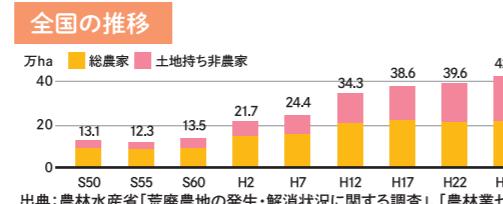
資源循環による、持続可能な農業、環境保全に向けた施策を開発します。

生産基盤となる耕地面積の推移

農地面積が減少し、耕作放棄地が増加しています。

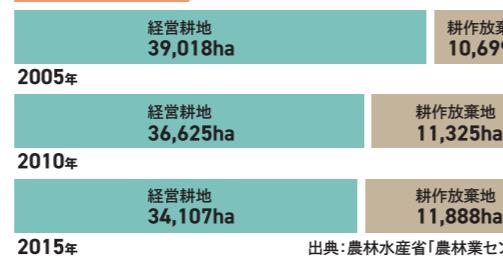


耕作放棄地面積の推移



【全国】
耕作放棄地面積
42.3万ha

広島県の推移



【広島】
耕作放棄地面積
約1.2万ha

わが国の情勢と課題

災害発生などの悪影響が懸念されています。

耕作放棄地は農業生産力の低下のみならず、鳥獣害や病害虫の発生、土砂災害発生、不法投棄の誘発、景観の悪化など、私たちの暮らしに悪影響を及ぼしています。



多面的な機能を持つ
環境保全につなげる

農地を維持することで、
ことができます

畜産たい肥による「土づくり」の必要性も高まっています。

化学肥料は、農業の生産性の向上を図り、収量を確保する上での重要な生産資材です。一方で、化学肥料に偏重した施肥による地力の低下や土壤養分バランスの不均衡は、連作障害などを引き起こすこともあることから、畜産たい肥を適切に活用した土づくりへのニーズが高まっています。

飼料用米・飼料用稻の活用による農地の確保

飼料用米・飼料用稻を家畜に与えることで、作付面積を維持し、耕作放棄地の発生を抑制することができます。

飼料を自給することで、国内畜産事業の安定化、ひいては持続可能な農業につながります。

農地面積維持

飼料原料確保 =畜産農業の持続

農地には、洪水や土砂災害の抑制といった、災害防止機能があり、農地を維持することは、地域の安全を担保することに結びついています。

農地の多面的機能

自然と調和した農地は、豊かな生態系を持つ自然を形成します。多様な生物が生息可能となる機能を維持することは、環境保全の役割も果たしています。

畜産たい肥の活用による農業の持続性の確保

農地機能維持

畜産たい肥には、肥料として有効な成分が含まれています。畜産たい肥を施用することにより豊かな土をつくることができ、農地としての機能を維持することができます。

肥料原料確保 =耕種農業の持続

限りある資源である畜産たい肥を有効活用することで、農業の持続性を高めることができます。

3-Rの目標

地域の魅力を未来に伝える「3-R」の活動はSDGsにもつながる取り組みです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「SDGs」とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

「3-R」はSDGsの17のゴールのうち、「11.住み続けられるまちづくり」(環境保全)、「12.つくる責任つかう責任」(資源循環)、「15.陸の豊かさも守ろう」(持続可能な農業へ)、「17.パートナーシップで目標を達成しよう」(耕畜連携)などに寄与しています。

